

平成30年 6月25日

報道機関各位

県土整備部 道路課

「奥入瀬ビジョン」が提言されます

国道103号奥入瀬（青樫山）バイパス事業着手を契機として、平成25年度に「奥入瀬溪流利活用検討委員会」（委員長：石田東生筑波大学名誉教授）が設置され、バイパス開通後の奥入瀬・十和田湖地域の目指す姿や、これを達成するための戦略「奥入瀬ビジョン」の検討を重ねてきました。

この度、「奥入瀬ビジョン」が策定されたことから、下記のとおり、6月27日（水）に石田委員長から知事と十和田市長に提言されることとなりましたのでお知らせします。

記

日 時：平成30年6月27日（水） 15：00～

場 所：第二応接室（南棟2階）

出席予定者：奥入瀬溪流利活用検討委員会委員長	石田 東生（筑波大学名誉教授）
青森県知事	三村 申吾
十和田市長	小山田 久
環境省東北地方環境事務所長	小沢 晴司
国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所長	佐近 裕之

そ の 他：詳細につきましては、添付の別紙「奥入瀬ビジョンについて」、「奥入瀬ビジョン」（冊子）等を参照願います。

奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局

国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所 調査第二課

青森県 県土整備部 道路課

十和田市 観光商工部 観光推進課

報道機関用提供資料	
担当課	県土整備部道路課
担当者	整備推進グループ 田中
電話番号	直通：017-734-9651 県庁内線：6712
報道監	新井田県土整備部理事

「奥入瀬ビジョン」について

(1) 背景

国民共有の貴重な財産である奥入瀬溪流の環境保全、**観光シーズンの渋滞対策、防災・減災対策**を目的に、平成25年度から国土交通省の直轄権限代行により**国道103号奥入瀬（青樫山）バイパス事業**に着手しました。

また同年度、奥入瀬溪流の素晴らしさを知っていただくためのしくみづくりや、バイパス開通後の自然保護と利活用を両立させる交通システムを検討することを目的に、有識者・専門家で構成する**「奥入瀬溪流利活用検討委員会」**を設立しました。

(2) 「奥入瀬ビジョン」策定の目的

バイパスが整備されると、溪流区間の現道を柔軟に利用することが可能となり、毎年秋に社会実験として実施している「マイカー交通規制（エコロードフェスタ）」による交通規制方法の検討だけでなく、観光振興・地域づくりにも影響があるため、バイパスの整備効果を最大限に活かすためには地域と行政、各分野の関係者が一体となって取り組んでいく必要があります。

そこで、奥入瀬溪流利活用検討委員会では、**各分野が統一的な考え方のもとで、各取組を進めていくために、バイパス開通後の奥入瀬・十和田湖地域の目指す姿や、これを達成するための戦略を「奥入瀬ビジョン」としてまとめること**にしました。

(3) 「奥入瀬ビジョン」の検討体制

「奥入瀬ビジョン」は地域の意見を踏まえて策定するために、地域の各分野のメンバーで構成する**ワークショップ**を9回開催し、出された意見を基に、地域の代表と行政とで構成する**奥入瀬地域協議会**において素案を策定しました。

ビジョンの素案は行政の各関係機関で構成する**奥入瀬溪流利活用検討部会**と**奥入瀬溪流利活用検討委員会**での議論を経て、この度、策定されました。

(4) 今後の取組について

「奥入瀬ビジョン」が示す奥入瀬・十和田湖地域の目指す姿を実現するために、「**環境保全**」、「**観光振興**」、「**交通システム**」の各分野が連携し合い、**具体的取組を進めていきます。**

奥入瀬ビジョンの概要

1. 目的

奥入瀬（青樺山）バイパスが整備されると、溪流区間の現道空間を柔軟に利用することが可能となり、交通規制だけではなく、観光振興、地域づくりなど、地域と行政、各分野の関係者が統一的な考え方のもとで、各取組を進めていくために、**バイパス開通後の奥入瀬・十和田湖地域の目指す姿や、これを達成するための戦略**をとりまとめる。

2. 地域の目指す姿

すばらしい自然環境を有する奥入瀬・十和田湖地域を**世界に誇れる地域として次世代に残していくためには、人と自然が共存・共生し、持続可能な地域であることが必要**。

そのために、自然環境や歴史文化の保全と、観光を中心とする生業が両立した地域を目指す。

3. 地域の目指す姿を実現するための戦略

(1) 基本戦略

- 1) **人財確保**：地域の持続的発展や地域を担う人財確保などを念頭に、総合的な地域づくりを進める。
- 2) **魅力の創出**：奥入瀬溪流の自然環境の魅力を最大限に活かすために、奥入瀬溪流を「天然の自然博物館」として捉え、各分野が共通認識の基、各種取組を進めていく。
- 3) **交通の転換**：奥入瀬（青樺山）バイパスの供用により、奥入瀬溪流の交通をバイパスに転換し、自然環境の保全や観光に活用していく。
- 4) **環境保全**：十和田八幡平国立公園の「公園計画書」や「管理計画書」を遵守することを基本とし、「十和田八幡平国立公園ステップアッププログラム2020」の取組方針と連携を図る。
- 5) **広域連携**：奥入瀬・十和田湖地域の持続的な発展を確実にするために、**周辺地域との広域的な連携**を図る。

(2) 各分野の戦略

- I) **環境保全**：①ゾーンコンセプトの明確化、②立入りによる攪乱を防止、③貴重な自然環境の永続的な保全
- II) **観光振興**：①滞在型観光の推進、②地域住民等のニーズにも応えつつ、各地区のコンセプトを明確にした観光の推進、③ターゲット客を明確にした地域ブランドづくり・観光資源の発掘、④奥入瀬ゾーンと十和田湖ゾーンの連携や広域連携による観光の推進、④冬期観光の推進
- III) **交通システム**：高齢者や障害者等を含めた様々な方に奥入瀬溪流を安全に気持ちよく散策し、満喫してもらえるような交通環境を目指し、**バイパスへの抜本的な交通転換のために、交通規制の導入を行う**。

奥入瀬ビジョン戦略マップ

- *多様な観光ニーズへの対応
- *各地区の観光振興コンセプトの明確化
- *ターゲットを明確にした地域ブランドづくり・観光資源発掘
- *奥入瀬溪流・十和田湖の連携、および広域連携による観光の推進
- *冬季観光の推進
- *ゾーンコンセプトの明確化
- *立入りによる攪乱の防止
- *貴重な自然環境の永続的な保全

※奥入瀬（青樫山）バイパス完成後を想定しています。
 ※エリアの項目は機能を示しています。
 ※現時点のもので、今後、修正の可能性があります。



黒文字：交通システム
 緑文字：観光振興
 紫文字：環境保全

国立公園特別保護地区
 国立公園特別地域

v22_180202

図 分野別の戦略マップ（統合版）

※カート：電動カート等の小型低速車両をイメージ

奥入瀬溪流利活用検討委員会

委員名簿

	氏名	所属・役職等
委員長	石田 東生	筑波大学 名誉教授
	泉山 元	青森経済同友会 幹事
	内山 清	青森中央学院大学教授
	九戸 眞樹	弘前市教育委員会 委員長（～H30.5）
	幸丸 政明	東京環境工科専門学校長
	武山 泰	八戸工業大学教授
	谷口 綾子	筑波大学大学院 准教授

敬称略・五十音順